

はあもにい

発行元：特定非営利活動法人 セルフ・サポート研究所

—薬物依存症者をもつ家族の会【はあもにい】—

〒 136-0071 東京都江東区亀戸 3-61-22

Tel 03-3683-3231

そよかぜライン（毎週・月・pm 1:00~8:30）

Tel 03-5628-2522

URL <http://www10.ocn.ne.jp/~hamoni/>

家族の 体験談

I・Yさん

出口の見えない 長い迷路からの脱出

娘と私たち



月日がたつのは早いもので、娘（十二歳）がSSにつながって二年近くになります。今改めて思い起こせば、私自身が加藤先生に出逢うまでの約三年間というものは、出口のみつからない長い迷路をさまよっていたような気がします。

長女である娘は高一の終わり、四歳年上の彼氏と交際中妊娠がわかり、本人が出産を強く望んだので、学校を退学、正式に結婚へ。しかし出産を機にお互いがかみあわず、二年で離婚。ままごと”のような結婚生活でした。その直後は心配かけたけれど子供と二人でこの先頑張るから！”と勇ましい

姿でした。

しかしそれからの生活は徐々に羽根がはえたかのように遊びまわり、墮落の途で、当然私をふくめ、主人、妹、弟達と毎日のように対立。

孫との生活



子供が一才をむかえた頃、不衛生な状況から重度の腸炎をおこし、一ヶ月の入院となりました。言葉がしゃべれない子供の入院は大変でした。家族が交代で病院につき、寝ている時以外は、つねに誰かが子供につきっきりですから。

娘はそういうストレスも重なり、遊びに歯止めがかからなくなったかのよ

うでした。その頃から私達で子供をひきとり、娘はついに家出。追い出したと言った方がよいかも知れません。それからが、まさにシンナーから覚せい剤へと、どろ沼に入り込むことになったのです。

よちよち歩きの子供を突然まるがえとなり、その時は家族で戸惑いました。私は主人と夜遅くまで飲食店をしていましたし、次女は高校受験をひかえての追い込みの時期でもあり、とりあえず、子供を何とかしようと夜間の託児所をさがしました。しかし近くになく、見かねた近所の知人が保育園から帰宅後、夜十時まで預かってくれ、夕食とお風呂をすませてくれました。本当に助かりました。何人かのそういう方々に助けられ、都合にあわせては



いわばたらい回しのような状態ではありましたが、三歳まで大病もせずおらかに育ちました。

子供がこうしてたくましく育つ間、母親である娘は、まさに正反対で、私たちの思いとはうらはらな生活で、家出をくり返し、結局いつも体をこわしては連絡をよこし、そのたびに居場所を聞いては、主人とむかえに行き、そのまま病院へ運ぶというようなことで、色々と振り回されました。

少ない情報



その当時、私のまわりでは薬物に関する情報がなく、知人と共に悩んだあげく、市内では名高いと言われる精神科に相談に行ったところ門前払い！

「広島市の精神保健センター 現在の広島県総合精神保健センター」へどうぞ」との一言。知人がセンターへの行き方を聞く為に電話をしてくれたのですが、S病院へ行かれた方が早いですよ！また、そこしか受け入れてくれないでしよう」との応えでした。私は内心、非合法なことをしたものは、立ち直りの受け皿もなく、心ない扱いをされるものだと、その時はっきり実感しました。

交通事故、そして



その後娘は車で追突事故を起こし、このままでは危険とのことで、S病院へ入院となりました。翌日から、度々手紙で反省の意を示す娘に、今度こそ家族が振り回されるのもこれで終わりか・・・”と思ったのは大間違いで、むしろそれからが大変でした。二ヶ月半で退院し、一ヶ月もたずにシンナーを再使用、結局半年後再入院。退院すればまた再使用のくり返して、何とか方法はないものだろうか”と悶々とした日々の中、ふと新聞記事が目にとまり「東京ダルク」の体験談が載っていて、思わず電話番号を切り取り、連絡をとってよいものかどうか主人と悩みました。

その記事で回復施設があることをはじめて知り、何かの手がかりが見つかるのでは・・・”との思いで電話をしました。するとスタッフの方が出て簡単に事情を説明すると、お母さん？娘さんは『**薬物依存症**』というまぎれもない病気なんですよ、今まで苦労されましたね”とさとするように言われ、受話器をにぎったまま、体中の力が肩から抜けるような気がしました。そして、『是非紹介したい所があります』と言われ、『セルフ・サポート研究所』という名前を、そこではじめて聞

きました。すぐにファックスで伝えてくださり、とりあえず私だけの電話相談から始まりました。

面談が実現



そして3ヶ月後には本人も直接カウセリングを受けることができたのですが、そんな折、友人を通しての密売人とのトラブルに巻きこまれ、主人同伴で警察へ出頭することになってしまいました。公判待ちの間、SSへ娘とはじめて訪問し、本人も「ここでならば今の自分さがしができそう・・・””と思えたようでした。一ヶ月後、判決で執行猶予がつき、改めて娘を加藤先生にお願いすることとなりました。



家族も
共依存症

新しい
生き方を



らの私の人生、生き方をも楽にさせてくれたと思っています。

約束の デイスニーランド



れて来た事を思い出すと、ほんのわずかですが、娘が少しくましくなった光景を見たような気がしました。

娘には乗り越えなければならぬハードルがたくさんあります。でもそれを取り越えるのは娘自身であるという事も、皆さんといっしょに学ばせていただきました。これからもよろしくお願い致します。女性ハウス入所の際、広島で遠隔地ということもあり、すべての事を先生、スタッフ、はあもにいらの方々に世話いただいた事を、この場をおかりしてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。そして何の情報もない中でこうして加藤先生にめぐり逢えた不思議な見えない「刃」に感謝致します。

そして私自身も家族も『共依存』という病気であるということをはじめ、認識し、私なりに学んでいこうと思ひ、あらゆる情報をあつめいろんな方の体験を聞いています。最近娘をとおして今までの私の生き方を考えさせられる貴重な勉強ができていくことに、改めて気づき、感謝の気持ちさえ覚えています。以前では絶対に考えられなかったことですが.....。

今年の二月、はじめて娘の子供（孫）をつれてSSへ行きました。子供と約束していたデイスニーランドへ長女、次女、孫、私と四人で行き、孫が大変感激し、自分の母親とはじめてのレジャーを満喫していました。宿泊先からデイスニーランドへの行き帰り、娘は駅員にたずねては最短で安く、乗りかえの少ない電車を聞き、まるで旅行会社の添乗員のように誘導してくれ、私たちは気楽に後をついて歩くだけでした。二年前には足どりの重い娘を私がひきずるように加藤先生のもとへ連



いつでも

やれるとき

やれることから

あなたのペースで

私のペースで

ちいさな一歩が

大きな愛に



フリーマーケットにご協力を願います

ご家庭で眠っているもの、シーツ・タオル・お茶・コーヒー・砂糖など。また手作り手芸品など大歓迎です。

なお、あなたの得意な編み物・カード作りに参加、ご協力を期待しております。よろしく願います。

はあもにい

はあもにいの活動は・・・

問題を抱えてSS研(セルフ・サポート研究所)に飛び込んできた私たちは、学びの場と出会いの場で、数え切れないほどの宝物を得ることができました。

いま、少しでもこの平安な気持ちを皆さんと分かち合いながら、まだ見ぬ悩める人や、依存症者の回復に必要な社会資源の提供に協力していきたいという目標で、はあもにいには活動しています。

フリーマーケットの売り上げ金などもそのために積み立てております。

みなさまの、あたたかいご理解とご協力に感謝いたしております。



深く悲しむ人ほど

強く歡ぶことができる

たくさん涙を流す人ほど

大いに笑うことができる

深く絶句する人ほど

強い希望をつかむことができる

強く悩み、強く迷う人ほど

本当の確信が得られる

釈迦



今後のスケジュール

公判の傍聴

5月12日 (水) 13:00

地方裁判所(霞ヶ関)
1F ロビー右側

今回は、森野先生(弁護士)が同伴されて、見学の後、勉強会も予定しています。



はあもにい総会

6月14日 (月) 18:00

セルフ・サポート研究所
202号室

はあもにい の会員の方、多数のご参加をお待ちしております。

5 1 5

1 1

来る! 4月24. 25日
ワークショップ



薬物に関する問題で困っていませんか?

薬物

そよかぜライン

5

5

1

1